



地震観測処理装置画面参考例



大型グラフィックパネル

福岡都市高速道路で計測震度計稼働

昨年、福岡都市高速道路の計測震度計が名古屋電機工業株式会社により更新され、当社の計測震度計(S210)が稼働しています。福岡都市高速道路の7カ所に設置したS210の情報が地震観測処理装置に送信され、さらに大型グラフィックパネルに伝送・表示される構成です。

設置したS210があらかじめ決められた震度以上の地震を観測したとき、高速道路の通行止め処置などの通行規制に利用されています。計測震度計の設置数に違いはありますが、北九州都市高速道路でも当社の計測震度計・地震観測処理装置が稼働しています。

明星電気の計測震度計が「いざという時」の判断をサポートし、高速道路の安全運行に役立っています。

(担当:気象防災事業部、九州支店)



水位計復調器

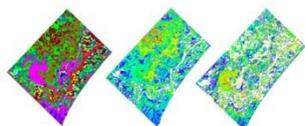
南極用潮位観測装置を納入

南極で潮汐観測に使用される潮位観測装置を海上保安庁に納入しました。

潮位観測装置は、昭和基地内に設置され、水位計センサーからの情報を潮位データに変換する水位計復調器、潮位データを各種フォーマットに変換してデータ送信・ディスプレイ表示などを行うデータ処理器、アナログ記録計などで構成されます。収集・変換された潮位データは、衛星通信回線などにより海上保安庁に送られます。潮汐の観測の結果は、潮汐予報、水深測量時の水深の補正および基準面の決定や海流変動の調査などの基礎資料になるとともに、地盤変動調査、地震予知など広範囲な分野で利用されています。

明星電気の観測装置が、南極の地で海洋関連基礎資料のデータ収集に貢献しています。

(担当:気象防災事業部)



© METI/J-spacesystems

HISUI初画像から処理して得られた画像

使用波長域:

- (左) 185バンドすべて
- (中) 650nmと860nm
- (右) 857nmと1241nm

宇宙実証用ハイパースペクトルセンサ(HISUI)が初画像取得

経済産業省および一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構(J-spacesystems)が開発したHISUI曝露ペイロードシステム(HISUI-ExP)が、国際宇宙ステーションの「きぼう」日本実験棟にて、初期機能確認試験の一環として画像を取得し、撮像データから試験的に処理を行い、初画像として公開されました。

HISUI-ExPは、日本のエネルギー・資源の安定供給のために、石油などの資源の遠隔探査を主要な目的として開発されたシステムです。搭載されているハイパースペクトルセンサは、既存のマルチスペクトルセンサに比べ、より高い精度で地表の物質などを識別する能力を有しています。当社は、カメラ部からの信号を処理するミッションデータ処理装置(MDP)と船内データ保存システム(MDR-PM)の開発を担当しました。今後、初期機能確認試験に引き続き、センサの校正、撮像データの精度確認、地上データ処理の整備等を行った後、定常運用観測、利用実証が開始される見込みです。

明星電気は、宇宙関連機器開発により、日本のエネルギー・資源探査分野の発展に貢献していきます。

(担当:宇宙防衛事業部)

【文中:敬称略】

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。